

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 4 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471504179		
法人名	有限会社シンライフ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	広島県福山市千田町2-33-23 (電話) 084-961-0206		
自己評価作成日	平成22年11月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471504179&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471504179&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成22年11月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>挨拶などの礼儀を大切にし、利用者を社会の先輩として、尊敬、慈しみを持って接している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームスマイル（以下、ホーム）は、玄関に一步足を踏み入れると、利用者、職員の温かい笑顔と挨拶に迎えられ、和やかな雰囲気です。ホームは、「報恩」「環境整備」「礼儀」という理念を掲げ、地域の中で暮らし続けることを支える独自の理念を作られています。「食事は最大の楽しみ」であることを念頭におき、ユニット内キッチンでご飯を炊く匂いや調理、後片づけの音が空間に広がって、五感を通して生活を感じられるように工夫されています。また、本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員全員が連携をとり、安心して納得した終末期を迎えられるよう看取りの方針も共有されています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	3項目の運営理念を掲げ、一つの指針を持つために毎朝朝礼にて唱和し、理念に沿った介護に努めている	運営理念である「報恩」「環境整備」「礼儀」をもとに、管理者、職員全員によって、ホーム独自の理念がつけられています。理念は、毎日の朝礼時に唱和し、共有に努めておられます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣施設の行事参加や、公園掃除・春秋の清掃に参加し地域の方とのコミュニケーションをとれる環境作りをしている	文化祭や敬老会、公園掃除、地域の清掃活動などの行事に参加されています。また、地域住民とも顔なじみで、散歩や洗濯物干しの際にも気軽に声をかけあう関係です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の参加を積極的にし、ホームの存在を知ってもらうと共に、ホーム内の行事を敷地入り口の看板に書き、いつでも参加していただけるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	3ヶ月に一度の運営推進会議を開き、民生委員や地域包括センター、市職員の参加があり意見を交換しその内容を全職員に知ってもらうようにしている	運営推進会議は、家族、民生委員児童委員、市職員、地域包括支援センター、町内会長、ホーム関係者等、多数の参加を得て3か月に1回開催されています。会議を重ねるにつれてホームの理解も広がり、町内会長の協力を得て、ホームのパンフレットを配るなど、地域との交流が生まれつつあります。	
5	4	○市町との連携 市町担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市や包括等の研修に参加し、日々のサービス向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市開催の介護保険事業所説明会や、3か月に1回意見交換会へ出席されています。また、処遇改善キャリアパス研修にも参加し、他事業所の管理者と意見交換の機会を得られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束はマイナスを及ぼす事を職員全員に周知徹底し、拘束のないケアを実践しているが、離苑の可能性の高い利用者が不穏な場合、仕方なく玄関に施錠をしている</p>	<p>全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアの実践に努めています。また、日頃から、場面に応じた言葉かけや傾聴を心がけ、不適切な言葉かけや対応をしないよう、ミーティングなどで職員同士お互いに注意しあえる環境づくりに取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>フロアにカメラを設置し、モニターにて24時間事故防止の注意をはらっている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部の勉強会等に参加して、持ち帰った知識をミーティングの時に発表し、意見を交換している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際は利用者、家族に重要事項を説明し不安や疑問点に対して十分な理解、納得を得るようにしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の日常の変化や要望を伝えるため家族の意見交換の場を設けているが、少数の参加しか実現できていないため、報告を込めて手紙や便りを送っている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、契約時にも説明して家族が意見を出しやすい環境づくりに努めておられます。また、家族が運営推進会議へ出席して意見を述べる機会を設けています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談の回数を増やし、現場職員の率直な意見を聞いたり、ミーティングを開き意見交換の場を増やしている	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに配慮されています。また、ミーティング、個別面談で、悩みや相談、意見を聞くとともに、職員の気づきやアイデアを運営に活かすなどの仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表自ら、個人面談や現場の観察をしている。また職員のモチベーションを下げないように先頭に立ってレクリエーションをしたり勉強会に参加している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社外研修の参加を積極的にしてもらうため、職員の閲覧できる場所に参加票をおいたり、ランダムに選考し参加してもらったり、向上心をもつ環境作りをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の意見交換会がある時は、職員の一人は必ず参加するようにしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前、最低でも一度は利用予定者を訪問し、会議の中や様子を見させて頂くなかで、不安や要望をくみとるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	小さな出来事、変化などを報告し、また家族からの不安なども気軽に聞ける状況をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人、別々に相談を聞き、必要サービス度の高い順でプランに組み入れるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人一人の好みや残存能力に応じた取り組みを提供し個々の満足を得られるようにする		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	長く利用されているとどうしても離れていきがちな家族にも行事などの際は声掛けにて参加を求め、日常の様子を見ていただく機会を作っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の馴染みの人や場所などを本人や家族から聞き把握して、希望に添うように支援している。	馴染みの美容室や、行きつけのスーパーに買い物に行くなど、地域に暮らす利用者一人ひとりの思いを大切に、馴染みの関係が続くよう努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で歌を歌ったり、会話をする場を作り、お互いのコミュニケーション能力が良い方向に行くように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了しても次の施設に面会に行き、関係を大切にしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	無理をせず、その人らしく希望、意向を聞き、全部はできないがそれに近づけるように支援している	利用者一人ひとりの思いの把握に努められています。また、家族との会話や暮らしの中から得られる情報をケアにつなげ、常に利用者の気持ちに沿った生活となるよう検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の生活歴を大切に、家族の情報を基に、その方にとって何が話しかけられるか話し合い支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人一人の特徴や変化を詳細に記録し、現状の把握に努めている。表情・顔色をチェックし何かあればスタッフ間で意見や情報の交換をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	グループホームでどのように生活していきたいか、本人や家族の希望を聞き、それを実現する為にはどのようにしたら良いかを話し合い、介護計画を作成している。また、3ヶ月に一度モニタリングやカンファレンスを行っている	かかりつけ医との連携を図りながら、利用者・家族の希望を反映した介護計画が作成されています。また、3か月ごとのモニタリングは職員全員が参加して行われています。利用者の状況変化に応じて、現状に即した計画を作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に残し、必要な時は情報を見て介護に役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでできる事はしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、ボランティア、地域の学校の行事等関わって生活している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間ごとにかかりつけ医が往診に来られる。緊急時にも24時間対応していただける	ホームかかりつけ医による往診が週2回あります。また、急変時に備えて24時間対応可能な体制もあります。歯科や整形外科、眼科等の通院支援も行われています。協力病院やかかりつけ医との密な連携が利用者・家族の安心感へとつながっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタルチェック時や異常に気付いたらすぐに看護師に相談し処置、又は受診をし支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中には度々訪問してかかりつけ医のアドバイスを参考にしながら、早期の退院に向けての話し合いを行っている		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	看護師が日頃から利用者の健康状態を密に家族に連絡することに努め、そうした場合が生じた時、家族と十分話し合いできる限り家族の意向に添った支援を行っている	ホームでは看取りの事例がありました。利用者・家族の安心と納得を得られるように、かかりつけ医、全職員で方針を共有し、その人らしく生きるために、利用者・家族の意向を踏まえ、安心して終末期が迎えられるような方針を持っておられます。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	毎月勉強会を実施し、応急手当、初期対応について学び実践力を身につけている		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	職場で避難訓練を行ったり、消防訓練に参加し、近くの公民館・農協・郵便局に挨拶をして協力を得られるようにしている	年1回避難訓練を実施されています。スプリンクラーの設置も完了しています。また、運営推進会議や日頃の付き合いの中から、災害時に備えて、地域住民や関係機関と夜間を想定して避難訓練実施の取り組みが進められています。	現在の取り組みを継続しながら、今後も、地域住民とのコミュニケーションをさらに深め、地域や関係機関の協力が得られるよう取り組まれることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	職員は常に利用者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を行っている	日頃から言葉かけや行動に配慮した対応をされています。また、利用者のプライバシーに関することや、言われたくないことは人前で話さないように職員間で話し合っ意識を共有されています。	現在の取り組みをステップアップするために、全職員が、誇りやプライバシー確保について常に確認しあう学習の場が設けられることを期待します。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一例としては、10時と3時のおやつ時に飲み物表を提示して好きなものを決めて頂く。決められない方には2つのうち、どちらかという方法で決めて頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースに合わせ、起床・食事・入浴の介助を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服の組み合わせを自分でわかる方は自分で選んでいただいたり、季節に合った服装で快適に過ごして頂けるように支援している。また毎月の出張、理・美容サービスを利用している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒にメニューを決めたり、食材の下ごしらえや盛り付けを職員と一緒にしたり、好き嫌いに合わせて細かく食べやすいように調理している。職員と一緒に楽しみながら食事をしてもらっている	利用者に食べたいものを聞き、食事のメニューを決めています。季節の食材を使い、下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳、下繕、食器洗い、テーブル拭きなど、一人ひとりの力に応じて力を発揮できるよう支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調や毎日の摂取量等考慮し、食事量水分量の加減等も行う。必要に応じて水分摂取表の記入を行い量の把握を実施している。毎食時事・1日二回のおやつ時は必ず水分摂取している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	できない方は介助にて行っている。歯科衛生士さんに聞いたり勉強しながら、残存能力を考え実施している。月2回歯科衛生士による口腔ケアを受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	下剤使用者は気をつけてトイレ回数を増やしたり、肛門刺激等も試みる。パット枚数は現在統計をとっているが、毎月平均的に利用している状態	常に利用者の立場に立った声かけに努められ、一人ひとりの習慣やパターンに応じた支援がされています。また、排泄困難の場合は原因を把握し、腹部マッサージ、下肢機能や括約筋向上の体操を日常的に行うなどして、自立した排泄に向けて支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食品は野菜中心の献立としている。運動は先生を招いて行っているが、毎日とはできていない。下剤に頼ることが多い。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	人数制限はあるものの、時と場合に応じ人数の変更があったり、時間の変更を行うこともある。入浴拒否をされることがあった場合は、その方の意思を尊重して臨機応変に対応している	利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切にしながら、その日の希望に応じて入浴できるよう支援されています。入浴は週3回提供されています。また、無理強いないよう、言葉かけなどに配慮しながら、清潔保持に取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は離床し、外気浴、ラジオ体操等をして心地よい疲労がもよおす中で眠れるように支援している。昼寝も1～2時間程軽く疲労を取る程度に休んでいただくようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時の注意事項に留意し管理している。きちんと服薬できているかは声掛け、見守りを行いその都度確認している。服薬の変化も観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物をたたんでいただける方、職員と一緒に洗濯物を干していただける方、新聞や郵便物を取っていただける方、各々の楽しみや役割の支援を行っている。毎夕食事ワインを嗜んでいる方もいる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者のほうから要望があった時には、なるべく家族の方に協力を得られるように努めている。職員が買い物に行く際、ドライブがてら外出したりしている	散歩のほかドライブを兼ねて花見、紅葉狩りやお参りなど、外出の機会をできるだけ増やし、季節の移り変わりを楽しまれています。また、食材の買い出しは日課となっています。時には、買い物帰りに喫茶店に立ち寄り、外出を利用者に楽しんでもらえるよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	週に一度移動パン屋が来るので、個々に選んで購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話したいとの希望がある方に対しては、職員から常識のある時間内に掛けて話をして頂くように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テレビは見やすいようにソファがある場所に置き見ていただいている。一人一人の聴力に応じての会話はトーンを配慮し陽射しはカーテン等で調節している。季節感を感じていただくため、とき折々の花を生けたり壁画にも工夫している</p>	<p>ホームに一步足を踏み入ると、利用者、職員の温かい笑顔と挨拶に迎えられました。共有空間は、吹き抜けで自然光が取り入れられており、ゆったりと過ごせます。また、ユニット内のキッチンで、ご飯を炊く匂いや調理、後片づけの音等が空間に広がって、五感で生活を感じられます。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気のあった利用者同士の席を隣にするなど楽しく過ごしていただいている。一人になりたい人はフロアーに居場所を確保している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用していたタンスや家族の写真を持ってこられ、安心して過ごしていただけるように工夫している</p>	<p>筆筒やテーブル、テレビ、写真、思い出の自動車、仏壇等を持ち込んでおられます。壁には家族の写真も飾られており、住み慣れた家と同じように安心できる雰囲気づくりに取り組まれています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>要所に手すり、浴室にはシャワーベンチ、便座にはウォシュレットにて身体機能の低下にあわせ安全を図る支援をしている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム スマイル

作成日 平成 23 年 5 月 16 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外の避難訓練を行っていない。	災害時, あわてずに行動できるようになる。	災害の状況に応じた適切な対応。マニュアルの作成, 把握を全職員が共有し行動に移す。	3か月
2	36	人権尊重とプライバシーの保護の重要性を認識する。	プライバシー保護の重要性を認識する。	研修会に参加し, 勉強会や, 日々の生活の中で意識を持った言動ができるようにする。	随時
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。